

新儀仗銃のモデルは 陸軍九九式短小銃

榊枝 宗男 陸自75

特別儀仗隊として迎賓館、羽田空港、総理官邸などで国賓をお迎えした際に儀仗任務を遂行する第302保安警務中隊が駐屯する市ヶ谷駐屯地において、4月15日警務隊長梅田将陸将補執行の下、東部方面警務隊長原健一佐が隷下部隊である第302保安警務中隊に対し、新儀仗銃の授与式を挙行了た。

創隊以来、使用していた米軍から供与を受けたM1ライフルの老朽化に伴い、新しい儀仗銃を要望する中、平成29年11月27日、東京五輪（2020年）等を見据え、国家の威容を示す観点から純国産の儀仗銃の採用を決定した。

旧日本陸軍の九九式短小銃を基本とし、儀仗隊員の意見を取り入れながら豊和工業（株）が製作にあたった。

主要諸元は全長1110mm、（M1ライフルより2mm、着剣時は26mm長い）、口径7・62mm、重量3・75kg（M1ライフルより550g、軽量）とされている。

令和元年からの自衛隊の儀仗の歴史、誇りを担う新小銃である。訓練展示の後、梅田警務隊長が全隊員にこの新し

い儀仗銃でこれから諸君らが新しい時代を切り拓いてもらいたいと、力強く訓示した。



上はM1ライフル、下は新儀仗銃



新儀仗銃で整列